

科目名	助産論Ⅱ(助産技術) Midwifery Ⅱ		担当教員 (研究室番号)	永見 桂子 (102) 大平 肇子 (104) 岩田 朋美 (101) 市川 陽子 (105) 前田 真 (非常勤) 盆野 元紀 (非常勤)	教員への連絡方法 (メールアドレス)	永見:keiko.nagami@mcn.ac.jp 大平:motoko.oohira@mcn.ac.jp 岩田:tomomi.iwata@mcn.ac.jp 市川:yoko.ichikawa@mcn.ac.jp					
履修年次	4年次前期	科目区分	専門科目・生涯看護学	選択区分	自由	単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	科目等履修生	否
科目目的	周産期にある母子とその家族の健康を支援するため、助産過程の展開に必要な知識・診断技術および助産実践に必要な基本的技術を修得する。また、助産管理の基本概念を理解し、助産業務を自律して遂行する能力を養う。										
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)									
	関連するDP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。(技能・表現) H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産実践における相談・教育活動の理論について述べるができる。</li> <li>2. 助産実践における相談・教育活動の技術を実施することができる。</li> <li>3. 周産期のフィジカルイグザミネーションを実施することができる。</li> <li>4. 周産期の助産診断を行い、助産計画を立案することができる。</li> <li>5. 分娩介助の意義と原理について述べるができる。</li> <li>6. 基本的な分娩介助技術を実施することができる。</li> <li>7. ハイリスク・異常状態にある周産期の対象のアセスメントとケアの実践について述べるができる。</li> <li>8. 周産期におけるリスクマネジメントと助産サービスの管理の特徴について述べるができる。</li> </ol>										
成績評価方法(基準)	筆記試験(60%)、演習課題(25%)、演習への取り組み(15%)										
再試験の有無と基準等	無:複数回の筆記試験・演習課題および演習への取り組みにより評価するため、科目の合否結果で不合格となった場合、再試験は実施しない。										
教科書	助産論Ⅰで指定した教科書、助産学講座5・10(医学書院) 新版 助産師業務要覧 第3版 I基礎編・II実践編 2020年版(日本看護協会出版会) 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版(医学書院) 日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト 第3版(メジカルビュー社)										
参考書等	助産学講座2~4・9、助産師基礎教育テキスト第1巻~第7巻(日本看護協会出版会) 新版 助産師業務要覧 第3版 IIIアドバンス編 2020年版(日本看護協会出版会)										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	助産師として必要な診断技術や分娩介助技術、保健指導の演習が中心です。特に分娩介助技術は母児の健康や出産体験に直接影響する技術です。母児の安全を最優先に考え、産婦とその家族がよりよい出産体験ができるよう、技術の習熟度を高めることが必須です。自主的・積極的な学習を期待します。										
備考	助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。助産論Ⅰの単位を修得していることが履修の前提となります。3年次の終了時までには修得すべき授業科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。										
回	学習項目			学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	助産実践における相談・教育活動の技術①			助産活動を支える理論・技術の基本について理解し、さまざまな相談・教育活動の技術の特徴と手法について学ぶ。				永見	講義		
2回	妊娠期の助産診断・技術とケア①			問診場面を想定し、フィジカルイグザミネーションに必要な妊娠期の問診項目を理解するとともに、妊婦への問診の実践を学ぶ。				永見	演習		
3回	妊娠期の助産診断・技術とケア②			問診場面を想定し、フィジカルイグザミネーションに必要な妊娠期の問診項目を理解するとともに、妊婦への問診の実践を学ぶ。				永見	演習		
4回	助産実践における相談・教育活動の技術②			妊婦健診時の保健指導場面を想定し、個人に対する相談・教育活動の具体的な展開方法を理解するとともに、妊婦への個人指導の実践を学ぶ。				永見	演習		
5回	助産実践における相談・教育活動の技術③			妊婦健診時の保健指導場面を想定し、個人に対する相談・教育活動の具体的な展開方法を理解するとともに、妊婦への個人指導の実践を学ぶ。				永見	演習		
6回	妊娠期の助産診断・技術とケア③			フィジカルイグザミネーションにおける助産師の基本的姿勢の理解のもとに、妊婦のフィジカルイグザミネーションの基本的技術について学ぶ。				永見	講義		
7回	妊娠期の助産診断・技術とケア④			妊婦健康診査の場面を想定し、妊娠期のフィジカルイグザミネーションの一連の過程に沿って、妊婦診察の実践を学ぶ。				永見	演習		
8回	分娩期の助産診断・技術とケア①			フィジカルイグザミネーションにおける助産師の基本的姿勢の理解のもとに、産婦のフィジカルイグザミネーションの基本的技術について学ぶ。				永見	講義		
9回	分娩期の助産診断・技術とケア②			産婦健康診査の場面を想定し、分娩期のフィジカルイグザミネーションの一連の過程に沿って、産婦診察の実践を学ぶ。				永見	演習		
10回	助産診断と助産過程①			助産診断の理論を踏まえ、妊産褥婦および胎児・新生児とその家族に対する助産過程の展開(助産計画立案・実施・評価のプロセス)について理解する。				岩田	講義		
11回	助産診断と助産過程②			分娩期の助産診断と助産過程の実践を学ぶ(助産計画の立案)。				岩田	演習		
12回	助産診断と助産過程③			分娩期の助産診断と助産過程の実践を学ぶ(助産計画のグループ発表)。				岩田	演習		
13回	分娩介助技術①			分娩介助の意義と原理の理解に基づき、分娩の円滑な進行を促す援助技術、分娩の準備、基本的な分娩介助技術について学ぶ。				永見	講義		

回	学習項目	学習内容	主担当教員	授業方法
14回	分娩介助技術②	分娩介助の準備について、グループ発表とディスカッションを行うとともに、実技をとおして実際に学ぶ。	永見	演習
15回	分娩介助技術③	肛門保護・会陰保護、児娩出時の基本的手技について、グループ発表とディスカッションを行うとともに、実技をとおして正常分娩介助法の実践を学ぶ。	永見	演習
16回	分娩介助技術④	出生直後の新生児ケア、胎盤娩出介助について、グループ発表とディスカッションを行うとともに、実技をとおして正常分娩介助法の実践を学ぶ。	永見	演習
17回	分娩介助技術⑤	分娩場面を想定し、分娩介助の準備から分娩直後に至るまで、正常分娩介助の一連の流れに沿った実技をとおして実際に学ぶ。	永見 他	演習
18回	分娩介助技術⑥	分娩場面を想定し、分娩介助の準備から分娩直後に至るまで、正常分娩介助の一連の流れに沿った実技をとおして実際に学ぶ。	永見 他	演習
19回	分娩介助技術⑦	エビデンスに基づきさまざまな産痛緩和法の実践を学ぶ。	市川	演習
20回	産褥期の助産診断・技術とケア①	出産体験の臨床的意義を理解し、出産体験の支援・パースレビューの実践を学ぶ。	岩田	演習
21回	産褥期の助産診断・技術とケア②	母乳育児支援に必要なコミュニケーションスキルを理解し、直接授乳への支援の実践を学ぶ。	岩田	演習
22回	分娩期の助産診断・技術とケア③	ハイリスク・異常産婦のアセスメントと緊急時の対応について学ぶ。	市川	講義
23回	分娩期の助産診断・技術とケア④	急速遂娩のための産科手術および産科的医療処置に必要な知識・技術について理解する。	前田 市川 他	演習
24回	分娩期の助産診断・技術とケア⑤	急速遂娩のための産科手術および産科的医療処置の実践について学ぶ。	前田 市川 他	演習
25回	産褥期の助産診断・技術とケア③	褥婦への身体的ケアの意義を理解し、心身の回復を促す助産ケアの実践を学ぶ。	大平	演習
26回	産褥期の助産診断・技術とケア④	褥婦の育児行動取得への支援の意義を理解し、健康教育の実践を学ぶ。産褥期の助産診断および保健指導案の作成と褥婦への個人指導の実践を学ぶ。	大平	演習
27回	新生児期の助産診断・技術とケア①	新生児のフィジカルイグザミネーションの実践と新生児蘇生法を学ぶ。	益野 市川 他	演習
28回	新生児期の助産診断・技術とケア②	ハイリスク状態にある新生児のアセスメントと援助に必要な知識・技術について理解する。	益野 市川 他	演習
29回	周産期におけるリスクマネジメント	周産期医療におけるリスクマネジメントの必要性和医療安全への取り組み、助産業務を遂行するために必要な法律・制度について理解し、ケアチームにおける助産師の役割を考える。	永見	演習
30回	助産サービスの管理の実践	助産サービスを管理するために必要な基本的概念を理解し、医療施設、地域で提供される助産サービスの特徴と目指すべき方向性について考える。助産所の開設、管理、運営の実践について学ぶ。	永見	講義

## 学 習 課 題

2回目・3回目課題（事前）：初診時の妊婦を想定し、問診項目を考慮しながら、所定の記録用紙を用いてロールプレイ用の事例を作成する。記録用紙は指定の期日までに提出する。〔配点5%〕
4回目・5回目課題（事前）：2回目・3回目授業で問診を行った妊婦への保健指導場面を想定し、所定の記録用紙を用いて保健指導案を作成する。記録用紙は指定の期日までに提出する。〔配点5%〕
6回目・7回目課題（事前）：妊婦健康診査の一連の流れと妊娠週数に応じた診察項目について整理する。
8回目・9回目課題（事前）：産婦健康診査の一連の流れと分娩経過に応じた診察項目について整理する。
11回目課題（事前）：グループディスカッションに向け、各自で提示された事例の助産計画を立案する。
11回目課題（事後）：グループディスカッションをもとに、事例の助産計画を12回目授業のプレゼンテーション資料としてまとめ、指定の期日までに提出する。〔配点5%〕
14回目～16回目課題（事前）：分娩介助の準備、正常分娩介助法について各自で調べる。調べた内容をグループで共有し、プレゼンテーション資料としてまとめ、指定の期日までに提出する。〔配点5%〕
17回目・18回目課題（事前）：11回目・12回目授業で助産計画を立案した初産婦の分娩場面を想定し、分娩介助の準備から胎盤娩出直後の観察まで一連の流れを実践できるように整理する。
19回目課題（事前）：産痛の機序や緩和方法について復習する。
21回目課題（事前）：母性看護方法Ⅱ、助産論Ⅰで学んだ母乳育児支援について復習する。
22回目～24回目課題（事前）：ハイリスク状態にある産婦、分娩時に予測される緊急事態について調べておく。
26回目課題（事前）：事例褥婦に対する保健指導場面を想定し、所定の記録用紙を用いて保健指導案を作成する。記録用紙は指定の期日までに提出する。〔配点5%〕
27回目・28回目課題（事前）：「日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト」を熟読しておく。
29回目課題（事前）：グループディスカッションに向け、分娩に関連して発症した重度脳性麻痺事例の概要を読み、所定の記録用紙に各自の意見・考えを記述する。

## 実務経験を活かした教育の取組

・専任教員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。また、非常勤講師は、医師（産婦人科医・新生児科医）として実務に携わっており、医学の実践及び教育・研究活動の経験を活かして本授業の演習を行う。